

二〇一九年度 選抜一期入学試験問題 「国語」

岡山県作陽高等学校

| | |
|------|----|
| 受験番号 | 氏名 |
| | |

注意 字数が指定されている設問については、「、」「や」「。」も
一マス使いなさい。答えはすべて解答用紙に記入しなさい。

① 次のそれぞれの問いに答えなさい。

- 一 次の①～⑦の空欄にそれぞれ共通して入る適当な漢字一字を答えなさい。
 - ① もしやくしも／をかぶる／の手も借りたい
 - ② 飛んで火に入る夏の／一寸のにも五分の魂／の知らせ
 - ③ 心あれば水心／逃したは大きい／水清ければ棲まず
 - ④ も歩けば棒にあたる／飼いに手をかまれる／猿の仲やぶをつついてを出す／の道は／にいらまれた蛙
 - ⑤ の耳に念仏／子にも衣装／が合う
 - ⑥ の歩み／角を矯めてを殺す／に引かれて善光寺参り
 - ⑦ の歩み／角を矯めてを殺す／に引かれて善光寺参り
- 二 次の①～⑤の空欄に入る適当な語を、それぞれ後の語群から選び、記号で答えなさい。(同じ記号は二度以上使わない)
 - ① いじめはしてはいけない。
 - ② 失敗しても、また挑戦する。
 - ③ ご協力をお願いします。
 - ④ 少子化は起きるのだろうか。
 - ⑤ あなたたちは兄弟のように仲がいい。
- 三 次の文章中の傍線部①～⑤の品詞を、それぞれ後の語群から選び、記号で答えなさい。(同じ記号は二度以上使わない)
 - ア まるで イ ぜひ ウ 決して エ たとえ オ どうして

夏①になると、必ず家族で②虫を見に行く。天気恵まれると最高に③美しい。空から星が降ってくるような幻想的な光景を見ることが出来る。④その様子は、星たちが楽しそうに⑤遊⑥ながらふわふわと舞っているようだった。どれだけ見ても飽き⑦ない。⑧ああ、なんてきれいなんだろうと胸がいっぱいになり、心が洗われていく。⑨だから、毎年見に行かずにはられないのである。

- ア 名詞 イ 動詞 ウ 形容詞 エ 形容動詞 オ 副詞
- カ 連体詞 キ 接続詞 ク 感動詞 ケ 助動詞 コ 助詞

② 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

イリオモテヤマネコやアマミノクロウサギのように世界的にもめずらしい動物がいることは、私たちにとって誇るべきことで、このことも島国であることに関係しています。島の成り立ちと動植物の移動の歴史が関係して、かぎられた島だけにしか生息していないのです。

島だから守られたという①側面はありますが、いつぼうで島であるがゆえに森林伐採や道路建設のような生息地の破壊に強い影響を受けるといふ側面もあります。島の集団ですからもとの個体数が多くありません。このため、個体数の減少がいつそう重大な意味をもちます。伝染病の感染や外来種の導入といった人為的影響も、それだけ深刻な意味をもちます。【A】もともとの地理的条件に、人為的影響が強くはたらくという、日本のような国におきかちな問題が発生しているのです。

クマやサル の 農業被害問題は、大局的にみて、山が荒れたことと、農山村から人がいなくなったことが背景にあるとみていいでしょう。保全のためさまざまな努力も、②この大きな問題の前にはなかなかうまくはたらかないでい

ます。シカの問題も同様ですが、シカの場合は農林業被害という経済問題を超えて、自然林にも重大な影響をおよぼすようになってきているという意味でいつそう深刻です。

日本人の大量消費的な生活様式は、外国からの物資をもちこむことによって支えられています。生活③ヒツジユ品だけでなく、豊かさにまかせてペットなどもどんどん輸入されています。そのために外来生物が④シンニュウし、もともとしていた動植物に悪影響をおよぼしています。この本ではマングースの例をとりあげましたが、外来種の問題は数えあげればきりがありません。あり、日本中で⑤猛威を⑥」といついていいほどです。

【B】野生動物の保全という意味ではあまりとりあげられない問題として、里山の動物があります。タヌキやノウサギなどはとくにめずらしくもない動物なので、「なんのために守るのか」の説明がむずかしいのです。

考えてみれば、いま力を入れて保護にあたっているトキやコウノトリも、かつての里山ではふつうの動物でした。そうであったからとくに守る必要もなく守らなければいけないという理由もないままに絶滅寸前まで追いつめられてしまったのです。ノウサギもそのような里山の動物の代表的なもので、農業がさかんだった時代はいたるところにいて食用にもなっていたほどですが、いまはたいへん少なくなってしまうました。⑦それでもノウサギを守ろうという運動はほとんどありません。トキやコウノトリは大きく、美しい鳥ですから、それだけでも守ってもらう条件をそなえています。タヌキなどこれといって美しくもない動物たちは、もの言わぬまま滅びてしまう可能性があるのです。

【C】地形がけわしくて森林が深いことは、島国であり、先進国であるわりには多くの動物が生き延びることにプラスにはたらいてきました。日本ほど狭い国で、しかも都市、農地が広く、道路網が発達した国に、ヒグマやツキノワグマのような大型肉食獣が生き延びているのはむしろめずらしいことといえます。ムササビやヤマネなど森林に深くむすびついて生活するほ乳類も生き延びており、ムササビは人口の多い都市の神社などにもいます。

このようにみえてくると、日本の野生動物は日本人の⑧キンベンな国民性によって生息地を奪われたり、汚染にさらされるといった⑨危機に⑩しながらも、⑪豊かな自然によって幸運にも生き延びてきたといえます。いくつかの種はもちろん手厚い保護を必要としています。しかし、シカに代表されるような繁殖力の強い種は、農林業の失速によって異常といえるような増加をしています。そのため、このような野生動物に対する管理の必要性が大きくなっています。⑫このような問題には、種のつながり重視する保全生態学が有効です。外来種についても保全生態学はさまざまな問題解決に⑬コウケンしてきまします。

しかし、里山の動物のようにありふれた種の保全生態学は、はなはだ遅れているといわなければなりません。

『野生動物と共存できるか 保全生態学入門』高槻成紀

- ① 傍線部③・④・⑤・⑥のカタカナを漢字に直しなさい。
- ② 【A】～【C】に当てはまる語を次の中からそれぞれ選び記号で答えなさい。
- ア いつぼう イ しかし ウ もつとも エ つまり

③ 「**①側面**」の意味として適当なものを、次の中から一つ選び記号で答えなさい。

- ア ささまざまな性質、特色のうちの、ある一面。
イ それぞれの考え方による、決まった方向。
ウ ある考え方から導き出される法則。

④ 傍線部⑥・⑬の空欄に当てはまることばを、次の中からそれぞれ選び記号で答えなさい。

- ㉔ 猛威を()
ア 誇っている イ ふるっている ウ はらっている
㉕ 危機に()しながら
ア 直面 イ 対面 ウ 当面

⑤ 「**⑭この大きな問題**」とはどのような問題か。本文中から四十五字以内で抜き出し、最初と最後の五字を答えなさい。

⑥ 「**⑰それでもノウサギを守ろう**という運動はほとんどありません」とあるが、その理由を本文中の語句を用いて三十字以内で答えなさい。

⑦ 「**⑱豊かな自然**」とはどのようなものか。本文中の語句を用いて十五字程度で答えなさい。

⑧ 「**⑲このような問題には、種のつながりを重視する保全生態字が有効です**」とあるが、筆者がこのように述べる理由を説明した次の文の空欄A～Dに当てはまる言葉を、解答欄の字数に合わせて本文中から抜き出して答えなさい。

いくつかの種は(A・五字)を必要としているが、シカなどのような(B・六字)種は、(C・六字)によって異常といえるような(D・二字)をしているから。

③ 次の文は合唱コンクールを三週間後に控えた中学校三年生の物語である。課題曲と自由曲の伴奏が共にままならない状態であることに、クラスの中で伴奏者である倉田に対する不信感が漂っている。指揮者の天木はこのような状態に焦りを感じている。そんな中、天木と同じクラスの松永が優秀なピアノリストであると、隣のクラスの伴奏者である椿に知らされる。その翌日の昼休み、天木は友人の秀人と一緒に松永に声をかける。これを読んで後の問いに答えなさい。

「松永、ちょっといいか」

昼休みに声をかけると、松永は目をゆっくりと①瞬き、席に座ったまま天木を見上げた。これまで話したこともろくにない。もっと動揺するかと思ったが、落ち着き払った動作だった。

「何？」

ずっと声を出すのを忘れていたかのように、言葉の先がかすれていた。

「ちょっと付き合ってくれないか。話がある」

松永の目が、天木の後ろに立つ秀人を見た。知った顔に助けを求めるといよりは、そうしないと失礼だから顔を確認したという雰囲気だった。返事はあつさり「いいよ」と返ってきた。

椿と待ち合わせた音楽室まで行く途中で、「ピアノ、弾けるのか」と尋ねると「え、うん」と、このときだけ初めて二拍答えに間を置いた。なぜそれを聞かれるのか全く分からないという声音に松永はやはり、秀人たちの言った通り、クラス内で起きている伴奏トラブルのことなど全く興味がなかったのだとわかる。天木は黙ってしまった。

音楽室に入ると、椿の他、部屋の後ろの方で女子数人がいくつかのグループに分かれて話していた。吹奏楽部の部員なのかもしれない。⑭中に、自分のクラスの人間がいないことを確認して、黒板に近い前の席に松永を座らせる。

「ひさしぶり」と椿が言った。

「ひさしぶり」

答えた松永の声が、さつきより⑯穏やかだった。顔に微笑みを浮かべている。

どうやら椿と仲がいいのは本当らしい。とりあえず安堵しながら、天木は切り出した。

「頼みがあるんだ。今回の合唱コンクールで、倉田と伴奏を代わってくれないか」

松永の顔から笑顔が消えた。単に驚いただけなのか、それとも機嫌を⑰損ねたのか、どちらかわからなかった。「自由曲の『樹氷の街』のほうだけでいいんだって。課題曲はこれまでどおり倉田さんに頼む」

打ち合わせたわけでもないのに、椿が付け加えた。課題曲も松永でいいじゃないか、と口をはさみかけた。ところが、彼女が続ける。

「ただ、倉田さんのピアノの練習もさ。松永くん、⑱すごく忙しいとは思っているだけどみてあげてくれない？ 教えてあげてほしいんだ」

松永が返事をするまで、長い時間がかかった。丸い、猫のような例の目で天木たち三人の顔を見回し、やがて首を振った。

「……人に教えたことがないから、無理だと思う」

「それでも、やるだけやってみない？」

椿が笑った。無理強いするような⑲焦った声ではなく、ごく軽い言い方だった。

「私も付き合いたいけど、違うクラスだからあんまり手伝うの、よくないと思うんだ。私も自分のクラスが大事だし、敵に塩を贈るのはちょっとね——」

「敵に塩？」

「あ、慣用語。昔、戦国時代に上杉謙信が武田信玄にね——」

関係ない話を始める椿を、ふざけてるのかとにらみかけたが、それを聞く松永の眼の光が濃くなった。普段一人でいるせいで、彼が人と話すところなどほとんど見たことがなかったが、その真剣さは意外だった。聞き終えて、「ふうん」とうなずく。

「みんなに迷惑にならない範囲でなら、私も手伝うよ。どう？ やってくれない？」

「お願い、松永くん！」

秀人がわざとらしく大げさに顔の前で手を合わせる。「このままじゃ、うちのクラス、曲、変える羽目になっちゃうよ」と。

⑳松永が初めて当惑らしい当惑を顔に浮かべた。また沈黙が落ちて、彼が宙を見つめるように視線を浮かせたとき、断られるのを覚悟した。が、帰ってきた答えは、予想外に悪くなかった。

「——倉田さんが、それで、嫌じゃないなら」

「やってくれるのか？」

「え、うん」

自信なげに松永が椿を見る。これでいいんだよね？ と確認するように。「やった」と秀人が小さく拍手をする。

「助かる。ありがとう。だけど、本当に大丈夫？ 松永君が、自分のコンクールとか演奏の都合があるなら、そっちの邪魔はしたくないんだけど……」

「夏にあったけど、今は大丈夫。あんまり遅い時間とか、土日はちょっと無理なんだけど」

遠くまで習いに行っているという自分のレッスンが入っているのかもしれない。天木はうなずき、「構わない、助かる」と応じた。

松永が、もういい？ というように、自分を取り囲む顔を見渡し、席を立つ。さつきから見ていると、松永は言葉を発することなく、目で人の顔色をうかがうことが多い。

「いつから頼める？」と天木は呼び止めた。松永はもう話しかけられるとは思っていないかったように背筋を伸ばし、首をかしげながら「いつからがいいの」と逆に問い返してきた。

「できれば、なるべく早く。楽譜は放課後までにコピーをもらって渡すよ」「わかった」

「こくりとうなずいて、松永は今度こそ音楽室を出て行く。」

昨日聞いたばかりの神童だという話や、ピアノのこと、天木にとっては興味

が尽きなかったし、⑩聞きたいことは山ほどあったが、のみ込んだ。

特定のグループに属さず、教室移動も一人。学校を休みがちだとはいえ、松永はそれでもそんな「一人」でいることをこつちにも意識させない。人から自分がどう見られているか興味がない、真に自信のある者にしか許されないスタンスだ。だったら傲慢な印象があってもいいものなのに、人の反応と空気を極力読もうと気遣うあの話し方は何なのだろう。

彼が去った後の音楽室で、椿から「倉田さんには、きちんと天木が話した方がいいと思うよ」とダメ押しのように言われた。

「誠意をもって、倉田さんのせいじゃないってことを話してあげて。こんな形で自由曲の伴奏をやめることになるなんて、不本意はずだから」

「楽譜を握りつぶしてまでやめたがってたのに？」

「天木」

「俺だって、これ以上余計なも事を増やすつもりはない。大丈夫だ。倉田には俺からうまく話す」

①秀人が横で肩をすくめて見せる。二人だけにわかる事項を確認するように、椿を見ていた。それに気づかないふりをして天木も席を立った。

『光待つ場所へ』 辻村深月

① 傍線部①・②・③・④の漢字の読み方を答えなさい。

② 「⑥中に、自分のクラスの間がいないことを確認し」たとあるが、天木がそうしたのなぜか。その理由を三十五字程度で説明しなさい。

③ 「⑨すごく忙しいとは思っただけど」とあるが、椿がそう思ったのなぜか。その理由を説明した次の文の空欄に、適切なことばを本文中より十五字で抜き出して答えなさい。

松永に（ ）があると思ったから。

④ 「⑧松永が初めて当惑らしい当惑を顔に浮かべた」とあるが、松永がそうなったのなぜか。その理由として最も適当なものを次の中から一つ選び記号で答えなさい。

ア 自分が伴奏を引き受けないと、曲の変更に関する全責任を押し付けられるのではないかと心配したから。

イ 自分が伴奏を引き受けることで、現伴奏者の倉田から恨まれたり嫌われたりするのではないかと心配したから。

ウ 自分が伴奏を引き受けようにも、見たことも聞いたこともない曲を弾けないのではないかと心配したから。

エ 自分が伴奏を引き受けたところで、クラスメイトは自分を信用してくれないのではないかと心配したから。

⑤ 「⑩聞きたいことは山ほどあったが、のみ込んだ」とあるが、天木がそうしたのなぜか。その理由として最も適当なものを次の中から一つ選び記号で答えなさい。

ア 部屋を出ようとしている松永を二度呼び止めるのは悪いと思ったから。

イ 松永の空気を讀んだ話し方と比べると自分がじめに思えたから。

ウ 秀人の好奇心にかこつけて重ねて質問をすると嫌われると思ったから。

エ 指揮者として松永に伴奏を依頼するには誠意にかけると思ったから。

⑥ 「①秀人が横で肩をすくめて見せる」とあるが、秀人がそのような態度をとったのなぜか。その理由の説明をした次の文の空欄に、適切なことばを三十字以内で当てはめて答えなさい。

天木の性格をよく知っている秀人には、（ ）。

4 筆者は、幼い頃から遠州灘沖地震や東海沖地震がいつか起こるとい話を聞かされていた。次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

東海沖大地震の噂は遠州灘沖の時よりもかなりエスカレートしていった。

津波は三十メートルを超えるだろう、地震と共に富士山は大爆発するだろう、

沿岸のコンビニナートも爆発するだろう、地面が大きく割れ人々はそこに落ちて死ぬだろう、火事になっても消防車は来ないだろう……など、どう考えてもい人も悪い人もみんな死んでしまおうとしか思えないような噂が流れつばなしになっていた。

本当はどうなんだろう。誰か本当の事を知っている人はいないんだろうか。ある日先生が黒板に断層プレートの絵まで描き、およそ二時間にわたって地震のしくみとエネルギーの話をしてくれたが何だかよくわからなかった。このさい地震のしくみはどうでもよいから、一体いつそれが起こるのか、そしてそれが起こったらどんな状況になるのか、その時我々はどこへどうやって逃げりやいいのか、その三点をハッキリ詳しく教えてほしいのだ。

生徒の中の何人かが先生に幾つか質問をした。その質問の中には、私がききたい三点も全て含まれていた。みんな知りたい事は同じなのだ。しかし、その三つの事は先生にもよくわからないという返事がかえってきた。

クラス全員が憂鬱になった。みんな、泣くに泣けない顔をしている。どうすりやいいのか見当もつかないまま、大きな不安を抱えて生きていかななくてはならないのだ。それが静岡県民の宿命なんて、あるひとつの県民全員がそんな宿命を背負うなんて、実に奇妙な気がする。だが、もう二十年以上も静岡県民は実際に全員その宿命を背負って生きているのだ。誰もが東海沖のことを心の底で心配している。静岡県民の多くは陽気だし、サツパリしていておおらかだが、東海沖の事を忘れてはいない。

私は上京して静岡から少し遠くに離れたが、東海地方の地震情報にはとても注意を払っている。私が育ったあの県が、少しでも揺れたら心配だ。そして東京も、いつ大地震が来るかわからないと言われ続けているし、何の前ぶれもなく阪神大震災は発生した。

地震の恐ろしさは幼い頃からきかされてきたが、阪神大震災の映像を見た時どんな噂で想像したものより悲しかった。みんなが生きている事とか、愛し合っている人々の事とか、健やかに育ってほしいと愛しまれている子供達の事とか、地震は全く考えてくれない。大切なものがあろうとなかろうと、夢があろうとなかろうと、突然ドシンと来てぶっ壊すだけだ。それでもみんな、その地面の上で生きてゆかなければならない。②地面だけでなく、不安定な大気の中でも生きてゆかなければならない。どんな都会の中にも、そこは地球という自然のまん中なのだ。私達はそこに住まわせてもらっているだけだ。

私は地球にお願いする。みんなが大事なものを抱えながら生きているのでどうかやたらと壊したりしないで下さい、と。

もし、地球がこのお願いをきいてくれるのなら、あとは人間が地球を壊さないように絶対に気をつけなくてはならない。いや、地球に頼む前に人間がちやんとする事の方が先だ。だって、人間は地球を何回も壊せるほど兵器をいっぱい持っているのだ。こんなことでは地球も不安で仕方ないだろう。人間にやられる前にオレがやってやるぜなんていう気を取り直さなければならぬ。人間同士なら話も早いだろうから、とりあえず地球を安心させるべきだと私は思う。

『まる子だった』さくらももこ

① 本文で述べられている内容に当てはまらないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 地震の無慈悲さ。

イ 静岡県民の後悔

ウ 地球をいたわる大切さ。

エ 地震に対する不安

② 「②地面だけでなく、不安定な大気の中でも生きてゆかなければならない」とあるが、地球温暖化の問題を解決していくために取り組んでいかなければならないことについて、あなたの考えを百一十五字以内で書きなさい。

